

ドラクシー川柳 Web 旬会

平成十八年八月〜平成十九年七月 年度賞発表

玄武洞評

最優秀賞（三万円と記念メダル）

総書記の唾が跳ねる日本海

「飛ばす」 核の傘

国際社会の中でだだっこを決め込む国家。それを指導するのは独りの総書記。テポドン、ノドンとかいう唾を世界に向って吐き出した。日本海に落ちた唾の飛沫は、とりわけ隣国の日本にふりかかった。「飛ばす」という能動的動詞題で、時事を捉えたこの作品は、川柳的批判精神を發揮して一年を通した収穫。

優秀賞（一万円と記念メダル）

団塊のよく似た酒と恋 なみだ

「団塊」 郷柳

「団塊川柳」募集と重なったが、酒・恋・涙という事象を並べるだけで団塊を象徴した手際は、技術的にも内容的にもすぐれている。

国民を記子のなかで飼い馴らす

「≡」 千鶴

イメージ課題。いろいろな見方のあるなかで、数字記号をうまく解釈して使った作品。国民を番号で管理しようという時代に、まさにその現実を十七音で描ききったところに功がある。

足跡に生きた証しの領収書

「硬い」 鶴丸

「硬い」という題を伝統川柳の視点で捉えた作品。まったく硬いというコトバは使わないが、領収書という存在自体がもつイメージを最大限に利用。「生きた証し」が利いた。

候補作品

総書記の舌で波立つ日本海

「賑やか」 鶴の声

ピカリの絵ときどき向けてくる殺意

「愛でる」 だっ平

レーザーと煙ライブの闇を割く

「賑やか」 彼氏

伸びたゴムくらいが心地いい夫婦

「ゆるい」 千里香

「めでたい」を追いかけてきた領収書

「めでたい」 だっ平

休日も妻のカーナビ付いている

「めでたい」 勲

華やかな街のどこかにある樹海

「裏」 ルビーの指環

記録から解放されたアイヌシヨウ

「氷」 勲

候補作品もそれぞれハイレベルであった。その中で、それぞれ年間2章の候補に上がっただっ平氏と勲氏に、記念メダルを贈呈して表彰したい。